

I 教材解釈

ピーターは、一人っ子だったこれまでと違い、妹のスージーが生まれてから父も母も自分に対する関心が薄れているように感じていた。母親が自分を注意したり大忙しで世話をしたりする姿から、ピーターは、母親が自分よりも妹を大事にしている（とピーターには思える）と考えた。父親はといえば、ピーターの思いを知らず、「ぼくのゆりかご」を妹用にピンクに塗り替えたうえ、「ぼくのしょくどういす」の色を塗り替えるようにあろうことかピーター自身に頼んでくる。「あれ、ぼくのしょくどういすなのになあ。」と不満の声を出しながら周りを見ると、なんと「ぼくの赤ちゃんベッド」はすでにピンクに塗られている。そんなときに見つけたのが「ぼくの青いいす」だったため、ピーターはあえて父に聞こえるように大声で青い椅子は僕のものだと主張し、大急ぎでその椅子を確保して自分の部屋へ駆け込んだ。

父母に対する不満が高まったピーターが選択したのは、家出だった。ピーターは家出の準備のためにかいものかごに色々詰め込みながら、「あの青いいすと、おもちゃのわにと、赤ちゃんのときのしゃしんをもっていこう。」と声を出す。食料や買い物かごがピーターの部屋にあるとは考えづらいため、このときピーターはリビングやダイニングのようなスペースにいたであろう。つまり、父や母に聞こえることを意識して発していると考ええる。また、その準備のスムーズさや犬のウイリーがなれたように骨をくわえてくることから、初めてではないのだろう。自分にもっと関心を持ってほしい時、これまでも家出という手段をとっていたと考える。

さて、準備を終えたピーターは、「ここがいいや。」と家の前を家で場所と決めた。ここをえらんだのは、いつも通り母親に見つけてもらうためだった。持ち出したものを「きちんとならべ」たのは、それを見せるためだった。そして、「しばらく」つまり母親が見つかるまで、「いすにすわっていることにした」のだが、予想外のことが起きる。「ぼくの青いいす」におしりが入らないのだ。その事実気づいたピーターは、赤ちゃん椅子に対して「大きくなりすぎていた」ことに気づく。ピーターは、自分はもう「ちっちゃい子ども」ではないという事実と、自分がやっていることが「ちっちゃい子ども」のままだったという事実の矛盾に気づいた。そして、母親がやってくるまでのしばらくの時間の間に「いいこと」を思いつく。

何も知らない母親は、いつものようにピーターに声をかけた。しかし、ピーターは今まで通りではなく、あえて聞こえないふりをする。「しばらく」時間がかかったものの母親はピーターが家に帰っていることがわかった。なぜなら「今まで通り」ピーターがかくれんぼをしていたからだ。いつもと何も変わらないと思った母親は「うれしそうに」いつものセリフを言う。普段なら、カーテンの裏に隠れたピーターを母親が見つけて終わり。でもこの日は違った。なんと、思いがけない方向からピーターの声がしてかくれんぼが終わるのだった。

母親に対して「ちっちゃなこども」ではないことを示すことができたピーターは、次に父親にもそれを示そうとする。それが「おとなのいすにすわる」ことだった。すると父親は何も言わずに自分の隣りに座ってくれた。自分の行動を認めてくれたのだ。「おとうさん、あのちっちゃないす、スージーのためにピンクにぬろうよ。」父親に大声で自分のものだと宣言し、家出にも持ち出した「あの」椅子を、なんと、自分からスージーのために塗ろうと提案した。これは、父親がピーターに食堂椅子の色をぬるようお願いしたことに対応した発言である。父親に対しても「ちっちゃなこども」ではないことを示したのだ。いいこととは、「もうちっちゃなこどもではない」ことを示すことであり、その具体的な方法が「かくれんぼ」であり、「大人の椅子に座る」ことであり、「自分から椅子の色を塗り替える提案をする」ことだったのだ。最後の場面で父親と二人でピンクに塗り替えたこと、それは自分のことばかり考えていた「ちっちゃなこども」からの脱却を示す行動でもあった。

2 単元計画（授業を想定する学年 5年生）

（1）単元計画

- 第1時 教材を読み、「変だ、おかしい」（核となる言葉の候補）を探す。
第2時 「変だ、おかしい」をもとに追求課題（核となる言葉）をつかむ。
第3時 ピーターの母親に対する気持ちに注目して追求する。
第4時（本時） ピーターの父親に対する気持ちに注目して追求する。
第5時 単元の最初の読みと最後の読みで、自分の読み方がどう変わったかを振り返る。

（2）展開案（第4時）

追求課題 どうしてピーターはいすをピンクにぬろうと言ったのか。

展開の核「おとうさん、あの ちっちゃな いす、スージーの ために ピンクに ぬろうよ。」

前時までにおさえておくこと ※数字は段落を示す

スージーはどんな子どもか。

- ・ 4 生まれたての赤ちゃん
- ・ 騒がしいと母親に4「しいいっ」と叱られる→寝ている、または寝かせている
- ・ 5 ピーターの妹
- ・ 5 「へやをそっと」覗く必要がある赤ん坊→寝ている、または寝かせている
★言葉のイメージ「そっと」
- ・ 6 「お母さんがゆりかごのまわりで大いそがし」になる→目が離せない年齢
- ・ 6 『ゆりかご』を使う年齢 ★言葉のイメージ「ゆりかご」

ピーターはどんな子どもか。

- ・ 1 背伸びをして積み木で遊ぶ様子から→元気（活発）な子
- ・ 6、7、8から→嫉妬心がある子
- ・ 9から→すぐ拗ねる子
- ・ 18、19から→甘えん坊な子

補助 『ピンクにぬる』とはどんな意味をもつのか。

- ・ スージーに椅子を譲る。 →スージーには必要
- ・ ピーターの持ち物ではなくなる。 →ピーターにはもう不要→少し前までは大切だった

補助 『あのちっちゃないす』とはどの場面の椅子のことか。

- ・ 8 「あれは、まだぬってないぞ。」の「あれ」にあたる椅子。
- ・ 8 ピーターのちっちゃいときにすわったいす。

対立 6段落と8段落の「あれ」に込められた気持ちはすべて同じか。

A 同じ

B 違う

対立の解消 → B（Aの否定）

- ・ 6 「だったのに」「ぬっちゃった」「なのになあ」→不満
- ・ 7 「これも」強調表現→強い不満に変化
- ・ 8 「ぬってないぞ」「大ごえをあげた」→強い主張
- ・ 9 「かけてった」→これは渡さないという強い意思、塗られたことに対する強い不満
- ★言葉のイメージ「（声）あげる」の意味

対立 なぜ21「あのちっちゃないす」と言ったのか。(ぼくの青い椅子でもよいのに)

A 椅子が小さかったから

B 成長した自分にはもう必要ない椅子だとわかったから

対立の解消 → B (AはBに集約される)

- ・ 14 ところがおしりがいすにはいらぬ。 ← 試した結果、予想外に
- ・ 15 ピーターは大きくなりすぎていたんだ。
- ★言葉のイメージ「ところが」「～すぎる」

対立 どうして「スージーのために」とつけたのか。

A 自分にはもういらぬものだから

B 自分はもう「ちっちゃな子ども」ではないから

対立の解消 → B (AはBに集約される)

- ・ 6 食堂椅子の色塗りを手伝うように言われたことがあったから。
- ・ 要らなくなったのはなぜか。 → 体が大きくなったから。
- ・ 「自分だけ」という子どもっぽい考えが変わったから。
- ★言葉のイメージ「ために」

対立 17「いいこと」とはどこまでを指すのか。(前時から引き続く対立)

A かくれんぼまで

B 大人の椅子に座ることまで

C 「あのちっちゃないす」をピンクに塗ろうと提案することまで

対立の解消 → C

- ・ 18～20は必要があるから書かれている。
- ・ 20「でも、おや、ピーターはいない」→「いつもとちがう」行動
- ・ 21「おとなのいす」とわざわざ書いてある→「いつもとちがう」行動
- ・ 6 父親から以前食堂椅子の塗替えを頼まれたことがあったことと対比している。
- ・ 22「そいで、ふたりでぬったんだ」

補発 ピーターは、なんのために17「いいこと」をしたのか。

- ・ 今までの自分とは違うことを示すため。

追求課題の解決 ・ 自分はもう父母が考えているような(いままでのような)『ちっちゃな』子どもではない(成長した)ことをはっきり示すため。

(3) 評価基準

評価基準	A	B	C
知・技	文や語句、接続の関係や文と文の關係に注目し、それを活用しながら文章を読んでいる。	文や語句、接続の關係や文と文の關係を意識して文章を読んでいる。	Bに満たない
思・判・表	登場人物の相互關係、心情の変化などについて、言葉を根拠として説明している。	登場人物の相互關係、心情の変化などの根拠となる言葉を選ぶことができている。	
主体的に学習に取り組む態度	文中の言葉のもつイメージをさまざまな方法で広げ(粘り強さ)、それを伝え合ったり相手の考えから発想を広げたりしている(調整力)。	文中の言葉のもつイメージを広げ、それを伝え合っている。	